

## グローバル化に伴う英語教育の変化について考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 衆議院議員選挙があり、投票日は来週の日曜日の12月14日です。有権者の方はそれまでに「この人に」という方を自分で決め、ぜひ投票に行っていたいただきたいと思います。  
日本国民には選挙権と被選挙権があります。選挙権とは、これぞという人を選ぶ権利のことです。被選挙権とは、選ばれる権利のことです。これは日本国民の大切な基本的人権の1つですから、ぜひ行使し、衆議院議員として国政を任せたいと思う方に1票を投じていただきたいと思います。くれぐれも棄権をせずに、12月14日には投票所に行っていたいただければと思います。当日は忙しくて行けないという方には、事前に投票できる制度があります。これを活用して投票してください。これは公民としての義務の1つです。ですから、義務を履行する・選挙権を行使するということで、投票所に行っていたいただければと思います。
3. さて、今日の放送では英語教育についてのお話を少しいたします。現代はグローバル化が急速に進んでいますので、教育界では英語教育についての議論が盛んです。  
なぜ英語教育改革が必要かといいますと、例えば多くの方が進学する大学にはいろいろな国の学生や学者の方々がいて、その間で交流をはかっているからではありません。鎖国の状態では日本国の進歩・自分自身の進歩は全くなく、日本の大学も世界から孤立してしまいます。日本の学生が世界に飛び立ったり、世界の各地から受け入れた留学生と交わったりするためには、その体制を整えなければならないということで、英語教育改革の必要性が盛んにいわれているのです。高校を卒業した人数の5割から6割にあたる方が4年制の大学に進学し、短期大学や専門学校に進まれる方もたくさんいますので、英語はぜひ勉強していただきたいと思います。
4. 英語の習得には4つの技能が必要です。書いてあるものを「読む」技能、話していることを「聞く」技能はよく言われていますが、これからは自分の表現したいことを「書く」技能と「話す」技能もとても大切です。「こんにちは」「さようなら」「お元気ですか」が英語で言えるくらいでは、大学で海外から来ている先生方と議論をしたり、留学生と話をしたりすることはなかなかできません。また、仕事をする上でも複雑な話をするのができません。ですから、読む技能・聞く技能・書く技能・話す技能すべてが必要で、これらを英語の4技能と言います。  
もう少し難しいのがクリティカル・シンキング(Critical Thinking)能力です。これは、他人の発言を正しく理解しながら、自分の意見を上手に伝える力のことです。これはとてもとても難しい技能ですが、これから先大学に行かれる方には必要になります。そのため、今までのように英文を讀ん

でそれを訳したり、文法事項の穴埋め問題を解いたりしていればよいという勉強はそろそろなくなるかもしれません。

5. 大学は、力のある学生を入学させて授業をしっかり受けて単位を取ってもらい、それから社会に送り出すようにしています。これは短期大学や専門学校も同じです。ですから、今中学校や高校で勉強している方も、先にお話した技能を身に着けたほうがよいと思います。例えば、上智大学では言語教育センターが今年度、つまり 2014 年度から 1 年生の必修英語をすべてアカデミック英語に切り替えました。アカデミック英語ですから、大学生として必要な英語にしたのです。前期には、論理的な思考に基づいて意見を述べたり論文を書いたりする力を身に着けさせます。後期になると、政治学・経済学・社会学などの講義を英語で受け、それらの内容について大学生どうしが前期に養った力を生かして英語でディスカッションできるようにします。今後は共通科目はすべて英語で講義を行うことを目指し、その準備をしています。上智大学は外国語教育が非常に盛んで、吉田研作先生を中心にこのようなことを進めています。

この上智大学の動きは最先端に行くものですが、いろいろな大学に波及しつつあります。おそらく 4 年後の 2018 年、つまり東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年の前々年には日本の英語教育はがらっと変わり、ほとんどの大学で上智大学と同じような形で授業が行われると思います。

6. ところで、日本人は数学や理科の分野では非常に力があるのですが、それを世界に発信する英語力は低いという弱点があります。ですから、これは 1 つの考えですが、今後は中学校の数学や理科を英語で勉強し、そのあとには高校の数学や理科も英語で勉強してから大学に進学する方も増えてくると思います。そうしないと、つまり小学校・中学校・高校の算数や数学、理科の内容を英語で理解していないと、大学で留学するときに困ることは明らかです。また、授業を受けたり、先生方や学生の皆さんと議論をしたりするときにも、小学校・中学校・高校の物理・化学をはじめとする各科目の内容を英語で理解しておいたほうがよいのです。そのため、これからはそのような授業も必要になると思います。

7. 外国で仕事をする場合は、小学校の算数・中学校の数学程度の内容が英語で身に着いていないと仕事になりません。また、中学校の理科・高校の化学の基礎的な内容も英語で身に着けていないと海外では仕事できません。そのくらいのことは英語でマスターしている外国の方がたくさんいますので、自分だけできないと非常に不便です。

8. ですから、英語は語学として勉強するだけでなく、日本語で内容をよく理解した科目については英語でも勉強する時代になってくると思います。企業は様々な変化に敏感ですので、大学もグローバル化の進展に合わせてどんどん変化すると思います。その 1 つとして英語教育もどんどん変わっていきますので、放送をお聴きの皆さんも注目していただければと思います。そして、学校の先生方、学校で学ぶ中学生・高校生・大学生の皆さんを励ましていただきたいと思います。また、元気のある方は「中学生・高校生・大学生といっしょにもう一度英語を勉強するんだ」という意欲を持って勉強していただければと思います。

今日は、英語教育改革について少しお話をさせていただきました。